

キャリア教育の視点を取り入れた教科学習

－ 社会科学習を中心に －

天内純一 平川市立小国小中学校

要旨

キャリア教育が重視されるようになった背景とその目指す方向を探るとともに、各教科でどのように取り組むべきか、留意点や具体的な授業の姿を考えた。

また、育成すべき能力として示された人間関係形成力、将来設計能力、情報活用能力、意思決定能力を学習活動の中でどのように育むのかという点について、具体的な教科学習をもとに考察した。主として社会科学習を中心に種々の学習方法や単元構成について述べた。

〔キーワード〕 キャリア教育 社会科教育 教材開発 人間関係形成力 情報活用能力 意思決定能力

1. はじめに

キャリア教育重視の方向が打ち出された時、次のように考えた教師が多かったのではないだろうか。「教育現場にはこれまでもさまざまな教育が持ち込まれている。国際理解教育、環境教育、福祉教育等、実に多い。これ以上は手が回らない。」「キャリア教育はただ企業の要望に応えるためのものではない。」「学校教育は企業の下請けではない。」「今までの教育との違いは何か。また、どのような時間を利用して行えばよいのか。」などである。当惑も含めてさまざまな疑問も起こっている。

キャリア教育が新たな教育活動だと考えると、教育現場は社会の変化に対応してまた一つ新たな教育課題を背負わされたことになるが、果たしてそうなのだろうか。キャリア教育が求めている自立性、望ましい職業観というのは、今初めて強調されたもののなのだろうか。

明治時代、福沢諭吉は「学問のすゝめ」の中で、「実生活に役立つ勉強を最優先すること」を強調している。また、改訂前の教育基本法（昭和22年）を読んでもみると、第二条・教育の方針には、「教育の目的は・・・実生活に即し、自発的精神を養い・・・」（一部省略）とある。ここには教育が社会的自立をめざしたものであり、子どもの生活との関連を重視したものであるということが述べられている。実生活重視と自発性、自主性を養うという点では、キャリア教育の求める方向と同一である。つまり、教育の目的は実生活に生きて働く力、自主的に実社会を生き抜く力を育てることを重要視しているということである。また、後述するように、学校教育法でもキャリア教育に関わる記述は多い。

このように考えてくると、キャリア教育は学校教育がめざす重要な目標であり、今新たに登場した新しい教育観でも新しい教育活動でもないことがわかる。キャリア教育推進が打ち出されたのは、現在の教育に抜け落ちていた「実生活重視と自発性、自主性の育成」の重要性を指摘するためだったと捉えることができる。

さて、それではキャリア教育にどのように取り組めばよいのだろうか。本論文ではまず各種の資料をもとにキャリア教育推進の背景と目指す方向を探る。次にキャリア

教育の推進にあたって具体的にどのように教育活動がなされるべきなのか考察していく。道徳、特別活動、総合的な学習の時間、各教科の学習の中で、時間的に大きな割合を占めるのは各教科の時間である。各教科の時間にキャリア教育の視点をどのように取り入れるかが問われる。そこで、本論文では各教科におけるキャリア教育を考えることとした。また全教科は範囲が広いため、特に社会科に焦点を絞り研究を進めていくこととした。

2. 研究内容

- (1) キャリア教育推進の背景と目指す方向を探る。
- (2) キャリア教育推進にあたって教科学習はどのような役割を果たせばよいのか、具体的に研究する。
- (3) キャリア教育のための教材開発をする。

3. キャリア教育推進の背景と目指す方向

3-1 キャリア教育推進の背景と目指す方向

キャリア教育という文言が登場したのは、平成11年の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等学校との接続の改善について」からである。その後の経緯については、文部科学省発行の「小学校キャリア教育の手引き」¹⁾に詳細に記されている。キャリア教育登場とその後の展開について、上記資料とともに他の資料をもとに筆者がまとめたものを論文の末尾に付録1として載せたので参照して戴きたい。

このようにキャリア教育が登場した背景には、社会環境の変化、若者自身の資質等をめぐる課題、子どもたちの成長・発達上の課題、高学歴社会における進路の未決定傾向等が挙げられている。学校における教育活動では、ともすれば「生きること」や「働くこと」に対する十分な取り組みが行われてこなかったのではないかという指摘もある。その結果、小学校段階から自立した社会人となるための教育活動推進が求められることとなった。

キャリア教育の法的な根拠は、教育基本法と学校教育法にある。教育基本法・第一章・第二条に教育の目標が掲げられているが、その二番目は次のようになっている。「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主および自律の精神を養うとともに、職業および生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。」また、学校教育法第二十一条には、教育基本法の目的を達成するために行われるべきこととして、「職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じた将来の進路を選択する能力を養うこと。」と述べられている。さらに、同条には各教科の目標として、「・・・生活に必要な国語を正しく理解し・・・」「生活に必要な数量的な関係を正しく理解し・・・」「生活にかかわる自然現象について、観察及び実験を通じて、科学的に理解し・・・」(一部省略)等の記述が見られる。このように、各教科の学習は子どもの生活とかかわっている必要がある。要するに、子どもが生活とかかわる学習に興味を持って取り組み、自分らしい生き方を実現させていくことが教育の目的なのである。

上記のことをもとにして、キャリア教育の視点は「将来の社会的自律・職業的自立を念頭に置きながら、子どもたちの成長や発達を促進する見方をもつこと」とする。つまり、現在指導している子どもの10年後、20年後の姿を常に念頭に置きながら日々の教育活動に取り組むということである。

この視点を持ち、小学校の各学年においてどのような資質や能力、態度を育てていけばよいかを検討して、授業改善を図り、学校教育の見直しを図ることが大切である。

具体的には次のような取り組みを図る必要がある。

- ①学習の必要感の問い直し、ねらい、指導内容や指導方法、振り返り方法などの見直しをする。
- ②学習形態、教材・教具等の改善・開発を行う。
- ③学習活動の場を学校内外に求め、幅広く行う。

学習活動にキャリア発達の視点を取り入れることによって、児童生徒の学習意欲が向上するとともに、より豊かで深まりのある授業が展開され则认为る。

3-2 夢の選択肢を広げてやること

2007年にBenesse教育研究開発センターが実施した「第4回学習基本調査」によると、小学5年生の男子の場合、将来つきたい職業の上位は、野球選手、サッカー選手、サラリーマン。女子は保育士、幼稚園の先生、ケーキ屋さん、パティシエ、看護師等である。

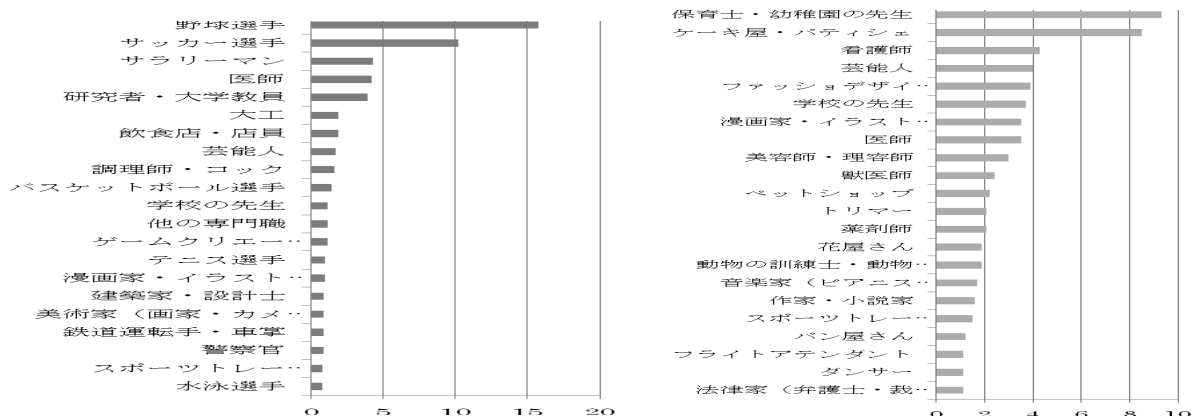


図1 将来つきたい職業（男子 1,397名、女子 1,310名） ※数値は%を表している

このように、身近な大人の職業やテレビなどで接する職業の中から選ばれている。これは仕方のないことかもしれないが、小学校教育の中でさまざまな人の生き方、職業について触れる機会があれば、もっと多彩になるのではないだろうか。例えば、消防士、警察官、自動車（環境に配慮した）の設計、電気にかかわる仕事、テレビ局・新聞社・図書館・給食センター・裁判所で働く人など、社会科学習の中だけでも多彩な職業の人々が登場する。夢の選択肢を数多く持たせ、可能性を広げてやること、それが小学校キャリア教育の目的である。そして、将来の夢を持たせることが学習の動機付けになっていくのである。

また、昔の人によく言われた言葉に「世のため、人のために何をするか。」というのがある。自分が生きて生活できることへの感謝の気持ちを持つこと、そして、そこから他の人や社会に対して何かできることはないかという気持ちを持つことの大切さに触れたものである。

実は、「自分が生きて生活できること」の陰にたくさんの人々の働きがあるという本当の実態を、子どもは理解していない。周囲には便利なものが揃っていて、それらは何も努力しなくても手に入るように思っている。例えば水である。水こそは、人間の長い間の努力と苦勞によって初めて安全に獲得できるようになったものである。ダム

間の人々の努力普段に続けられている維持・管理の仕事によって成り立っているのである。詳しくは後述するが、まず、子どもが自分では気付かなかった、人々の働きについて理解させ、それらに対して感謝の気持ちを持たせることが大切である。

中学生の場合は、現在の学習と将来の仕事とが結びつかないと考えている子が多い。「現在の学習と将来の仕事とが結びつかない中学生」（平成21年11月 国立教育研究所生徒指導センター・「キャリア教育って結局何なんだ？」）⁶⁾によれば、数学・理科の得点は非常に高いが、学習の楽しさを感じていない生徒が実に多い。また、学習が日常生活に役に立つと考えたり、将来の仕事と結び付けて考えたりしている生徒の数は非常に少ない。従って、学習の必要感を持たせたり、将来の自分の姿と関連づけて学習を考えたりする子どもにすることが求められる。

後述するような学習方法・形態の工夫が必要である。また、これも後述するがゲストティーチャーの効果的な活用によって、今学習していることが、将来の仕事と深く関わっていることに気付かせることができる。

4 小学校におけるキャリア教育

4-1 キャリア教育実践の場

キャリア教育を実践するにあたって、「自分に気付き、未来を築くキャリア教育」⁵⁾には、実践の場として次のように示されている。日常生活、特別活動、総合的な学習の時間、各教科、道徳、外国語が挙げられている。具体的な例としては、日常生活では係活動、日直、清掃、給食、朝の会、帰りの会、異年齢集団活動。特別活動では、縦割り行事、学級活動計画の作成、児童会集会、クラブ活動の運営、ボランティア活動が挙げられている。これらの活動を通して、働くことの素晴らしさを学ばせ、自らの役割を果たすことから得られる達成感や自覚を持たせることができる。

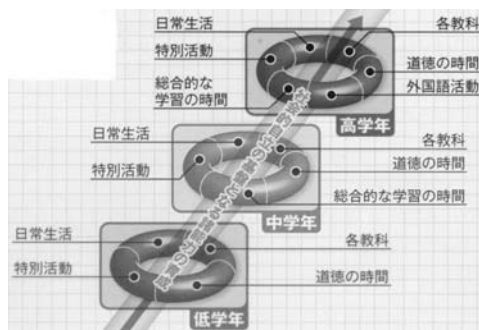


図2 キャリア教育実践の場

しかし、実際の学校現場ではどうだろうか。この図はそれぞれの項目に軽重をつけるためのものではないが、ともすると、特活、総合（以下便宜上総合的な時間を総合とする。）各教科、道徳等が並列で、キャリア教育に占める割合も同じようなイメージを受ける。付随して掲載されている「事例に学ぼう」では3つの小学校の実践例が紹介されているが、それは、生活科と総合のみである。また、初等教育資料N o 819⁸⁾では小学校におけるキャリア教育の推進を特集しているが、ここに掲載されている指導事例はキャリア教育のための特設時間（総合など）が多い。

各教科の学習の大切さについてもう少し述べる。新学習指導要領では小学校における総授業時数は5645時間である。その中で各教科の学習は4740時間であるが、生活科・総合的な学習の時間・道徳・特別活動を合わせても905時間しかない。この割合を示したのが次の図である。

この図からわかるように、学校教育の中心は各教科の学習である。各教科の学習が改善されなければ、いろいろな教育の目的が達成されないのである。教育基本法で掲げている「自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」という目標を達成するためには、特別活動、総合的な

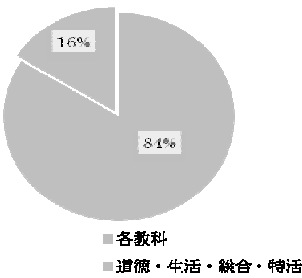


図3 小学校の授業時数

学習の時間、生活科、道徳等を中心として進めるといふ、従来の考え方からの脱却を図らなければならない。

また、渡辺三枝子³⁾は次のように述べている。「キャリア教育は職業体験を行わせることではない。」
「多様な活動に仲間とともに取り組む過程を通して、未知のことを知る面白さ、努力することの意味や学習に挑戦する価値、考えの違う仲間とともに学ぶことの面白さを体得することが将来の職業人の基礎となる。」ここに述べられている未知の学習への挑戦、仲間とともに学ぶことの面白さを体得する

という点に注目したい。この過程は道徳・特別活動よりも、各教科の学習の中に存在すると考えられる。

4-2 キャリア教育と教科教育

「自分に気付き、未来を築くキャリア教育」⁵⁾、小学校キャリア教育の手引き¹⁾から各教科の指導の重点や例を抜き出してみた。

低学年	・グループ活動など協同的な学習活動を通して社会性を培う。 ・好きなことを見付け、一生懸命取り組む姿勢をはぐくむ。
中学年	・学習が日常生活や将来の生き方と関連していることに気付かせ学ぶ意欲につなげる。 【例】社会 「まちたんけん」「昔の暮らし」「水道」「消防署や警察署で働く人たち」 体育 「大きくなったわたしの体」 国語 「わたしの研究レポート」
高学年	・学習が生活や職業と関連することの理解を深め、互いに学び合い、高め合える態度を育てる。 【例】社会 産業と国民生活との関連について理解する 理科 電気の働きを利用した道具が生活を支えていることを理解する。 国語 伝記を読み、自分の生き方について考える。 家庭 自分の成長を自覚することを通して、家庭生活と家族の大切さに気付く。

低学年	・生活 小学校生活への適応を促す。「がっこうだいすき！ーがっこうたんけんー」 ・生活 地域で働く人に関心をもち、自分で考え行動する力を育てる。 「だいすき わたしたちのまち」
中学年	・国語 言葉によるコミュニケーション能力を高める。「調べて発表しよう」 ・社会 モデルとなる生き方との出会いを通して夢をはぐくむ 「安全なくらしとまちづくり」 ・理科 普段の学習が将来につながることを実感させる。 「自由研究・出かけよう科学の世界へ」 ・体育 自分らしく生きること自信をもたせる 「育ちゆく体とわたし」
高学年	・社会 働く人たちの姿や思いから、働くことの意義について考えさせる。 「工業生産を支える人々」(5年) ・体育 かかわり合いの中で共に高め合う態度をはぐくむ。 「めざせ！キラキラプレイヤー・ソフトバレーボール」(5年) ・国語 伝記から生き方、考え方を学び、自己の生き方について考えさせる。 「夢に向かって」(6年) ・社会 夢や希望、憧れる自己のイメージをはぐくむ 「世界の人々とともに生きる」(6年) ・家庭 自己と家庭、家庭と社会とのつながりから生活をよりよくしようとする態度を育てる。 「地域とのつながりを広げよう」(6年)

ここに挙げられている教科学習の例は少ない。また、国語の例からわかるように、キャリア教育の行われるのが一部の単元であるという印象を与えかねない。キャリア教育を一部の単元だけで行うのではなく、全単元を通して意図的、計画的、継続的な指導を行わなければならない。そうしなければキャリア教育とは名ばかりで、実のないも

のになるおそれがある。

4-3 キャリア教育の視点を取り入れた学習

キャリア教育が充実するためには、平成14年の報告書で示された4つの能力を重視し、これらを指導過程に取り入れることが大切ではないか。4つの能力とは人間関係形成力（自他の理解能力・コミュニケーション能力）、将来設計能力（役割把握・認識能力・計画実行能力）、情報活用能力（情報収集・探究能力・職業理解能力）、意思決定能力（選択能力・課題解決能力）である。この4つの能力が統合されたものが生きる力である。

この4つの能力を育成することを学習指導の根本に据えることで、学習内容や学習方法、学習形態、学習活動の場等の見直しを図るべきだと考える。

これまで筆者が実践してみたいろいろな学習等を、この4つの能力育成と照らし合わせてみると、次のようになる。

	人間関係形成力	将来設計能力	情報活用能力	意思決定能力
インターネットを活用した交流学习	○		○	
ジグソー学習	○	○	○	○
主体的学習(村上・木戸理論)	○		○	○
意思決定を重視した学習	○		○	○

インターネットを活用した交流学习、ジグソー学習の詳細については前号^{15) 16) 17)}を参照して戴きたい。主体的学習（村上・木戸理論）は、学習の前時に次時の学習問題が決まってしまう。そして、本時が始まるまでにあらかじめ自分の考えをしっかりとってから授業に臨むものである。例えば、国語「ごんぎつね」の最終場面を学習した後、「このお話の続きを書いてみよう」という課題を設定する。子どもたちは、それぞれ読み取ったことをもとに想像力を働かせて、次時までに「ごんぎつね」の続きの話を考える。そして、自分の考えたお話を発表したり、友だちの考えた話を聞いたりするという楽しみを抱えて授業に臨むのである。

この学習方法では、学習に取り組む意欲を大きく高めるだけでなく、人間関係形成力、情報活用能力、意思決定能力の育成にも効果がある。

ジグソー学習はキャリア教育が求めている4つの能力育成には最適な学習方法である。ひとつの学習をテーマごとに分割し、学習者がそれぞれのテーマごとに分かれ、協力して調査活動に取り組むものである。例えば、国語「きつねの窓」を読んだ後、「安房直子の世界を広めよう。どんなお話を書く作家だろう。」というテーマのもとに、生活グループが分散し、新たな学習グループを構成する。そして、学習グループで読み取ったことをもとに、生活グループに戻り、それぞれ読み取ったことを情報交換して、テーマに迫ると言うものである。（社会科の実践例については前号を参照¹⁷⁾）子ども一人一人に追究課題があり、学習目的が明確なため、責任を持って追究活動をするようになる。そして、情報を収集し意思決定をするので、そのための能力が育成される。また、追究してわかったことを教え合うことによって人間関係が改善される。

4-4 意思決定を取り入れた学習

いくつかの選択肢を用意し、自分がそのどれに賛同するか決めさせるということ

学習の柱として、問題追究に取り組ませる方法である。社会科学習に取り入れられることが多い。（提案する社会科など。）この「自分の立場を決めさせる」という方法を取り入れて、次のような学習を考えてみた。（詳細は略）

(1) 国語

- ①「大造じいさんとがん」という題名だけから主役はどちらだと思うか決めさせる。
大造じいさんという子が多いが、本文を読んでいくと残雪（がん）ではないかと考える子が出てくる。どちらが主役と考えるのかは読者の自由であるが、その根拠を示すために細かな読みが求められることになる。ここに学習の必要感が生まれる。
- ② 3つの詩に、好きな順番をつけよう。
・夕日がせなかをおしてくる ・ゆうひのてがみ ・いちばんぼし
なぜその順番にしたのか、細かな読み取りを通して理由付けさせる。また、友だちの選んだ順番とその理由を話し合うことによって、新たな読みと解釈を発見できる。

(2) 社会科

- ①平川市に自動車工場を誘致（ゆうち）すべきか。賛否を決めてから自動車工業について詳しく調べる活動に入る。（5年「自動車工業」）
- ②遠足の日の天気を知りたい。自分だったら何で調べるか。（5年「わたしたちのくらしをささえる情報」）
・テレビの天気予報 ・新聞 ・インターネット（家の人に頼んで）
・電話で天気予報 ・その他
なぜその方法が良いのか、それぞれの長所を中心に調べ話し合う。
- ③ある学級で、遠足のおやつを買った店を調べてみた。スーパー、コンビニ、その他の店の中で一番多かったのはどれだと思うか。（3年「スーパーマーケットではたらく人」）予想した答えをもとに、3つの店の特徴を調べる活動に入る。

5 キャリア教育と社会科

キャリアの視点を取り入れた社会科学習では、自分を取りまく社会はさまざまな人々の努力や工夫によって成り立っていることを実感させることを重視する。平易に言えば、「自分はたくさんの人にお世話になっていること」に気付かせるのである。そして、逆に「自分は社会を支える一員として社会のために尽くす必要がある」という実践的な態度を育てていくのである。この意味では小学校中学年の社会科の果たす役割は非常に大きい。以下にこの点を踏まえた教材の例を載せる。

5-1 安全なくらし 住みよいくらし

この二つの単元の目標は「人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする」ことである。ここで大切なことは、諸活動を理解するだけでなく、実感させることである。

学習の流れは概ね次のようになる。

- ①ALT（英語指導助手）からアメリカの様子などについて話していただく。その中に次のような話を入れる。「日本は非常に安全な国でびっくりしている。」「また、健康でとても過ごしやすい国である。」平川市に住んで三年目を迎えているALTの方から「驚いていること」として、オーバーに話していただく。（付録2）

②そのわけを考えさせる。

③平川市が安全なわけを調べる。(消防・警察)

平川市が健康で過ごしやすいわけを調べる。(ごみ・水道(ガス・電気))

③の学習にあたっては、子どもが自分の周囲の人々に「お世話になっている」ということを実感できるような資料や提示方法、活動等を工夫する。例えば次のようなことが考えられる。

- ・学校に不審者が入ってきた場合の警察官の突入のようす、取り押さえる道具。
- ・浄水場から学校まで水が運ばれるためには、送水管が道路の下を通り、時には踏切の下を通り、(橋に沿って)川の上を渡り、はるばるとやって来ること。
- ・消火活動は一秒を争う。平川市の消防車は、小和森小学校から火事の知らせを受けたら、わずか2分で駆けつける。そのための訓練に日夜励んでいる人たちがいる。平川市内の学校に到着するまでにかかる時間は何と数分。(付録4を参照)
- ・自分の出したゴミはどうなるのか。学校にやってくる清掃車の方に直接インタビューして、自分が実際に出したゴミの行き先を追究させる。これは清掃工場見学や埋立地見学へと繋げる。また、給食の残飯はどうなるのかという、子どもの思考を揺さぶる発問をして追究心を高める方法もある。

5-2 社会科副読本の充実

上述した「安全なくらし」や「住みよいくらし」の学習に欠かせないのが地域の資料を掲載した社会科副読本の存在である。3・4年の社会科は自分の住んでいる地域の学習であるから、社会科の教科書を利用することはできない。自分の地域のようすではなく、教科書に掲載されている他都道府県の資料をもとに学習を進めた場合、指導要領「社会科」の目標は達成されないことになる。指導要領には、「自分たちの住んでいる身近な地域や市(区、町、村)」、「地域の人々の生活にとって必要・・・」というように明確に示されているからである。

そのため、中学年を担当した教師は地域資料の収集に追われることになるが、これを緩和するのが社会科副読本の存在である。この副読本の存在とその内容によって中学年社会科は目標達成が大きく左右される。下の写真は平川市の副読本に掲載されているものである。たくさんの人々の働きがあって、はじめて健康で安全な生活を送ることができるを実感させるために利用する。平川市が作成した社会科副読本「私たちの平川市」には、自分たちの地域について調査活動をするための資料がたくさん載せられている。



6 キャリア教育を支えるその他の要素

6-1 ゲストティーチャー

仕事に生きがいを持って働いている人を探し出すのが教師の役目である。それには教材発掘と同じエネルギーを使うが、キャリア教育には欠かせないものである。ゲストティーチャーからのお話に含ませたいのが、「生き方・仕事への想い」である。また、子どもが現在勉強している算数、国語などがゲストティーチャーの仕事とどうかかわったかという実体験を語っていただくと、子どもの学習意欲が高まる。例えば、6年「私たちの暮らしと政治」で税務署の方が出前授業をして下さったりすることがあるが、その時のお話の中に次のようなことを入れていただく。「私は小学校の頃、算数が苦手で、とても苦労しました。でも、今このような税金に関係のある仕事についてみると、嫌いな算数でも一生懸命勉強してとても良かったと思っています。小学校の算数というのは、将来いろいろな仕事をする時にとても大切な勉強なのです・・・。」このようなお話の内容は、ゲストティーチャーと教師との打合せの時に話し合う。そのゲストティーチャーが、読書や理科の植物の観察が現在の自分の仕事と関わっていると考える場合は、上記の算数を国語や理科の学習に置き換えて話していただく。

以下に子どもたちがかわる方を挙げてみた。かなりの数に上っているが、この方々の活用の方や方法を工夫する必要がある。

(1) 学校生活と関わる方

- ・ 検診等にお出でになった方・・・医師 看護師
- ・ いろいろな学校の先生・・・中学校 高等学校 弘前大学へき地教育サークル
- ・ お世話になった葛川保育園 ・ 教材屋さん ・ 学校建築・管理・修理 除雪
- ・ 学校評議員 民生委員 平川市教育委員 町内会長・役員
- ・ 学校や家にいる生き物と関わっているペット屋さんなど

(2) 特に授業で関わる方

- ・ 市役所の職員 ・ 伝統工芸士 ・ 裁判関係(弁護士・裁判官・検察官)

(3) 学校行事などで関わる方（上記(2)と重なるものも多い。）

- ・ 社会見学 ～ 農家 工場 商店（スーパー等を含む）清掃工場
浄水場 黒石警察署 平川消防署・消防団 下水処理場
給食センター等さまざまな市の施設
放送局 新聞社 運輸関連などで働く人々
- ・ その他 ～ 八甲田登山のガイド スキーのインストラクター
修学旅行関連（添乗員を含む）
福祉体験に関わった方々 市バスの運転手さん
黒石商業・デザイン科の学生

6-2 自分とのかかわりを大事にした学習・学習の必要感を持たせる学習

前記したように学校教育法には、「生活に必要な国語」「生活に必要な数量的な関係」「生活にかかわる自然現象」などという文言が出ている。各教科の指導にあたっては、教材や指導方法が子どもの生活との関連を図ったものとなっているか、今一度検討する必要がある。付録3に、中学年社会科「火事がおきたら」の指導案を載せたが、自分の学校で火事がおきたらどうなるのかということから学習を進める方法である。ここでは、火事という不測の事態を自分とのかかわりで捉えさせることがねらいである。さらに、付録4に示したが、消防車が各学校に駆けつけるまでの時間を調べたり、各学校の位置を確かめたりすることによって、自分とのかかわりを広げていくという活動に進む。

その他、社会事象をより実感的を伴って捉えさせるために、4年・伝統工芸（私たちの青森県）・の学習では「津軽塗り体験」、6年歴史では「模倣発掘」等の体験活動

を取り入れることも重視したい。(二つの学習の詳細については参考文献 18 を参照)
算数については付録 5 に、4 年「いろいろな四角形」の例を載せた。

6-3 子どもの学習活動が中心の指導案

キャリア教育では、これまで以上に一人一人に目を向ける必要がある。画一的な一斉指導からの脱却である。そのためには、子どもの学ぶ姿をメインにした指導案の作成が大切である。

教師の発問、はたらきかけ、留意点等が中心となっている指導案がある。これは授業を進めるためには必要であるが、一方に学習者である子どもの「学びの姿」がなければならない。子どもがどのような課題を発見し、それをどのように解決していくのか、また、どこで「つまづく」のか、そのような学習者の「学びの道すじ」が示されているものでなければならない。そのような意図を持った指導案を考えた。(付録 3 参照) また、子どもの身近な活動の中から教材開発した算数の例も載せた。(付録 5 参照)

この他、平成 21 年度全国社会科研究大会で提案された、「本時の学習問題をすべて疑問型にする」という方法¹⁹⁾は、子どもの追究意欲をかき立てるのに効果がある。

6 まとめと今後の課題

キャリア教育が重視されるようになった背景とその目指す方向を探りながら、各教科でどのように取り組むべきか、社会科を中心として留意点や具体的な授業の姿を述べてきた。

キャリア教育は新しい教育活動というよりも、将来の展望を描けないまま日々の学習に取り組んでいる子どもに、活力と主体性を与えるために注ぎ込まれた教育改革と考えるとわかりやすい。現在の学習方法、学習形態等を見直すための一石と考えてもよい。以上のことも踏まえながら、キャリア教育のねらいを次のようにまとめる。

- ・ 育成すべき能力（例示されたのは 4 つ）をしっかりと定め、この能力を「段階的に」積み重ねる。そして、進路選択時点などにおいてそれらの能力を具体的な行動として発揮できるようにする。それがキャリア教育のねらいである。

参考・引用文献

- 1) 文部科学省(2010); 小学校 キャリア教育の手引き, 文部科学省
- 2) 文部科学省(2007); 小学校学習指導要領解説総則編, 文部科学省
- 3) 渡辺三枝子(2007); 小学校におけるキャリア教育の現状と課題, 初等教育資料, 東洋館出版社, pp. 30～39.
- 4) 渡辺三枝子(2003); なぜ, キャリア教育が求められるのか, 教職研修, 教育開発研究所, pp. 32～35.
同じ「教職研修」の中に渡辺三枝子を含んで 10 人が寄稿している。
- 5) 国立教育研究所生徒指導センター(2009); 「自分に気付き、未来を築くキャリア教育」小学校におけるキャリア教育推進のために
- 6) 国立教育研究所生徒指導センター(2009); 「キャリア教育って結局何なんだ?」中学校におけるキャリア教育推進のために, pp. 10
- 7) 桑原敏典(2009); キャリア教育, 小学校の社会科を読み解く, 明治図書, pp. 85～98.
- 8) 杉田洋(2007); 小学校におけるキャリア教育, 初等教育資料, 東洋館出版社, pp. 2～5.
- 9) 三村隆男・松原真奈美・高橋妃彩子・秋山勝美(2007); これからのキャリア教育を考える, 初等教育

資料, 東洋館出版社, pp. 30～39.

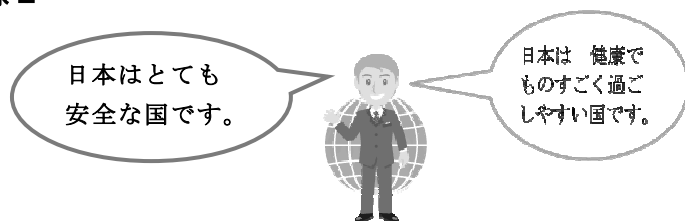
- 10) 森野豊(2007);小学校におけるキャリア教育の推進, 小学校時報, 全国小学校長会, pp. 10～14.
- 11) 岡本恵一(2008);キャリア教育の視点から「あたり前」のことを見直す, 中学校, No654, pp. 19-21, 全日本中学校長会.
- 12) 藤田晃之(2008);中学校におけるキャリア教育の改善・充実の方向性-新学習指導要領がもとめるキャリア教育の在り方-, 中学校, No644, pp. 8-11, 全日本中学校長会.
- 13) 北俊夫(2006);社会科の新しい基礎・基本-緊急課題の授業モデル-, 明治図書, pp. 85～98.
- 14) 3・4年社会科副読本・わたしたちの平川市(2009);平川市教育委員会(青森県)
- 15) 天内純一(2000);インターネットの利用と総合的学習, 弘前大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究員研究報告書, 第8号, pp. 29-42.
- 16) 天内純一(2001);インターネットの利用と総合的学習Ⅱ, 弘前大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究員研究報告書, 第9号, pp. 93-114.
- 17) 天内純一(2007);学習意欲を高める学習形態の開発-ジグソー学習と社会科学習-, 弘前大学教育学部・附属教育実践センター研究員紀要第5号.
- 18) 天内純一(1995);体験を重視した社会科学習 弘前大学教育実践センター報告書
- 19) 第47回全国小学校社会科研究協議会研究大会紀要(2009);川崎市立橘小学校

付録1 キャリア教育の登場とその後の展開

- ①平成11年12月、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」が出されたが、この答申は、「学校教育と職業生活との接続の改善」も視野に入れたものであり、この中で「キャリア教育・・・を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある」と示された。「キャリア教育」という文言が初めてつかわれた。
- ②上記をもとに、平成13年8月から平成16年1月まで、国立教育政策研究所及び文部科学省の調査研究が行われた。
- ③平成14年 国立教育政策研究所生徒指導センターは、子どもの職業観や勤労観に関する調査結果を幅広く収集し、それらの現状や課題、学校教育における取り組み状況に関する報告書を出した。
小・中・高等学校の各段階におけるキャリア発達課題とこれを達成するための4つの能力(人間関係形成力・将来設計能力・情報活用能力・意思決定能力)が示された。
- ④平成15年 文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣及び経済財政政策担当大臣からなる「若者自立・挑戦戦略会議」において「若者自立・挑戦プラン」が取りまとめられ、その重要な柱としてキャリア教育の推進が位置付けられた。
- ⑤平成16年1月「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～」で、小学校から発達に応じてキャリア教育を推進することが提言された。また、この年度から文部科学省の研究指定事業(新キャリア教育プラン推進事業、キャリア教育実践プロジェクト-小・中・高等学校における先進的な実践)が始まった。12月には、文部科学大臣をはじめとする関係4閣僚に内閣官房長官、農林水産大臣、少子化・男女共同参画担当大臣も加え『若者自立・挑戦プラン』の基本的方向及び具体化の取りまとめや実効性・効率性を目的とした「若者の自立・挑戦のためのアクションプラン」が策定された。
- ⑥平成17年10月の中央教育審議会の答申「新しい時代の義務教育を創造する」の第一章(2)「教育内容の改善」のA「基本的な理念・目標」において、学習指導要領の見直しに当たって重視すべきこととして次のことが示された。
・将来の職業や生活への見通しを与えるなど、学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させる教育を充実し、学ぶ意欲を高めること
11月を「キャリア・スタート・ウィーク推進月間」とする
- ⑦平成18年1月、「若者の自立・挑戦のためのアクションプラン」の改訂版が、取りまとめられ、その強化が図られた。このアクションプランは、政府の「経済財政運営と構造改革に関する基本方針」、いわゆる骨太の方針にも盛り込まれている。
2月の中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「審議経過報告」で、近年、若者の社会とかかわろうとする意欲が低下していることをあげ、各教科等を通じて、協調性や責任感など他者とかかわる力の育成、社会生活の中での責任や勤労などの概念の理解・定着を図る必要がある。」とべられた。

- 1 1 月 文部科学省から「キャリア教育推進の手引」が出され、小・中・高等学校の各段階で取り組まなければならない「キャリア発達課題」があること、キャリア教育の全体計画作成の必要性があることが述べられた。
- 1 2 月 教育基本法 第二条の第二号
「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」
- ⑧平成19年9月 文部科学省作成「キャリア・スタート・ウィーク」の更なる推進に向けて ～「学ぶこと」「働くこと」「生きること」～ 文部科学省は「大人へ一歩、社会に挑む」を取組の標語とし、11月を「職場体験チャレンジ月間」とした。
- ⑨平成20年1月の中教審の答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」
1 2 月 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方についての諮問・中央教育審議会社会・職業への円滑な移行のために学生・生徒に求められる基礎的・汎用的な能力について初等中等教育、高等教育それぞれの段階に即して明らかにするとともに、発達段階に応じてその確実な育成を図る。
- ⑩新学習指導要領 第一章第5「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の2（4）に、「各教科の指導に当たっては、児童が学習課題や活動を選択したり自らの将来について考えたりする機会を設けるなど工夫すること」と定められた。
- ⑪平成21年 国立教育研究所生徒指導センターより冊子発行
「自分に気付き、未来を築くキャリア教育」（小学校におけるキャリア教育推進のために）
3 月
「キャリア教育って結局何なんだ？」（中学校におけるキャリア教育推進のために）
1 1 月
- ⑫平成22年 文部科学省 小学校キャリア教育の手引き発行

付録2



A L T に具体的な場面をもとに話していただく。

安全
・泥棒 ・夜道 ・交通安全
健康
・水道 ・ごみ

付録3 4年社会科指導案 「小国に火事がおこったら」（主要部分のみ）

学 習 活 動	教 師 の 支 援
<p>1 学習課題の発見</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>小国に火事が起こったらどうなるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは避難する ・先生方が消火する ・消防車はどこから来るのかな？ ・小国の消防団のひとは何人？だれ？ ・市の中心部にある消防署から来る？ 何分でくるのか 消防車の数 黒石の消防署の方が速い？ ・・・ </div> <p>2 学習課題をつかむ</p> <p>①小国消防団についてくわしく調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数 どんな人か ・ふだんの日に火事が起こったらどうするか 消防車を運転する人 どこから水をもってくるか 水をかける人 服そう その他 ・消防団の建物の中にあるもの <p>②平川市消防署についてくわしく調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小国まで何分かかかるか ・何分で消すことができるか 	<p>○学校の小屋の漏電から、出火した場合を想定させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小屋内部、コンセント、長年踏まれたり引っ張られて断線した線等の写真 ・小国の消防団の建物に入った経験、平川市の消防署の場所、その他、知っていること、予想等を幅広く話し合わせるために、いろいろな写真やビデオを用意する。 <p>・「小国に火事が起こったらどうなる」という単元全体の学習課題を解決するために、確かめなければならないこと、新たに調べなければならないことがたくさんあることに気付かせる。</p> <p>・小国の地図、平川市の地図、近隣の市町村がわかる地図などの資料を、必要な場面で提示し、子どもの思考の広がり进行を助ける。</p>

<p>③その他にどこの消防署や消防団がやってくるのか</p> <ul style="list-style-type: none">・葛川 温湯 牡丹平 広船 竹館？・黒石消防署 ・弘前消防署は来るのかな？ <p>④その他</p> <p>3 学習の見通しを立てる</p> <p>①調べる方法</p> <ul style="list-style-type: none">・インタビュー ○○君のお父さんが消防団長・見学 小国川近くの消防団の建物・平川市消防署見学計画 <p>②学習計画を立てる</p>	<p>・平川市のように、農家、工場、スーパー等で 利用した資料などを、いつでも提示できるようにしておき、調査方法に気付かせるとともに、探究意欲を高める。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------

付録4 消防車が事の知らせを受けてから市内の各学校に到着するまでにかかる時間

- ・小和森小学校（約2分）・猿賀小学校（約4分）・広船小学校（約7分）・平賀東小学校（約2分）
- ・松崎小学校（約4分）・碓ヶ関小学校（約20分）・金田小学校（約3分）・竹館小学校（約6分）
- ・小国小学校（約27分）・柏木小学校（約3分）・大坊小学校（約7分）・葛川小学校（約31分）

付録5 4年算数「いろいろな四角形」の学習の例 （2／13）

(1)小国農園では、みんなそれぞれ好きな形の畑をつくることにしました。

①Aさん

②B君


③C君

④D君

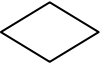
⑤Eさん

F君












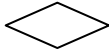






- (2)生徒会長のF君が考えた形をみんなに見せたら、
- Aさん「わたしと似ているところがある。」 B君 「ぼくも似ているところがあるよ。」
- C君 「よく見ると、ぼくも似ている。」 D君 「ぼくとは、かなり似ているよ。」
- Eさん「私と一番似ている。」

(3)似ているところを考えてみましょう。まず、自分の畑から・・・。

正方形と似ているところを探そう

					
正方形と似ているところ 					

- (4)それぞれの発表を聞く ← 聞く人は助けてあげたり、付け足してあげたりする。
- (5)いろいろな図形の特ちょうをまとめてみよう。
- ア 直角があるのは・・・ イ 一組の辺が平行なのは・・・ ウ 二組の辺が平行なのは・・・
- エ 全部の角が直角なのは・・・ オ 四つの辺の長さが同じなのは・・・